和白干潟を守る会

２０２３年度活動報告

和白干潟を守る会事務局

２０２３年度のまとめ

和白干潟を守る会の環境保全活動は、35年を過ぎました。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、これからも環境保全活動を続けていきます。2023年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行して、活動がしやすくなりました。5月のガイド講習会は雨のために室内講習のみとなり、7月にフィールドで講習を行いました。フィールド講習では一般の参加者もあり、楽しく有意義な講習会になりました。11月に開催した和白干潟まつりは、晴天に恵まれて570人の参加があり大成功でした。鳥類調査とクリーン作戦は無事に続けることができました。

夏の猛暑が続き、アオサの発生が復活しました。沖では堆積したアオサにより、貝類が死んで口を開けています。北西の強い季節風により、大量のアオサが沿岸に吹き寄せられて腐りました。アオサの発生を抑えるよう、水質の改善が求められています。

守る会の新しい会員も増えました。今後は新しい会員や若い会員が事務局を務めてくれることを願っています。ラムサール条約に登録されるためには、国指定鳥獣保護区の「特別保護地区」に指定されなければなりませんが、和白干潟はまだ国指定鳥獣保護区の普通地区のままです。7月に「和白干潟のラムサール条約登録」を求める要望書を福岡市長に提出し、8月に市長の回答をいただきましたが、ラムサール条約登録についての回答が無く、9月に再度要望書を提出しました。10月に再回答書が届きましたが、「ラムサール条約登録は将来的な課題である」との回答でした。今後も和白干潟がラムサール条約に登録されるように活動を続けていきましょう。

守る会が呼びかけた「山・川・海の流域会議」の活動では、立花山・唐原川・和白干潟の保全グループが連携して保全活動を続けています。2023 年 1 月に新春講演会「立花山の地質について」を行い、10 月には「唐原川お掃除し隊」を行いました。

守る会の活動への企業や学校の支援としては「クリーン作戦」への参加や観察会の企画、寄付等があります。九州産業大学は特別講義を企画され、多彩に協力いただきました。あいおいニッセイ同和損保や MS&AD ホールディングス、ユネスコ協会連盟やダンロップグループなどは、和白干潟の観察会とクリーン作戦を企画し、寄付もいただきました。2023 年度もよく活動できたと思います。今冬は、ミヤコドリは 26 羽が和白干潟に来ており、クロツラヘラサギも最大 31 羽を確認しています。ツクシガモは最大 117 羽を確認しました。シギやチドリが増えて、和白干潟がもっともっと回復していってほしいと願っています。

2024 年度も和白干潟を守る活動に、皆さまのご協力をお願いします。和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となるように希望を持ってがんばりましょう！自然豊かな和白干潟を、みんなの努力で未来の人たちに渡したいと思います。

和白干潟を守る会　代表　山本廣子

活動方針に基づく報告とまとめ

１．和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」、「クリーン作戦と自然観察」「和白干潟まつり」「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。

１．和白干潟観察会

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症は終息に向かったが、観察会は少なかった。1 月に観察会案内状の送付を行い、観察会グループミーティングは、12 月に行った。観察会の依頼を受けると、事前に下見・打合せを行い、観察会に来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をしてもらった後、観察会を実施した。

2023 年度中（1 月～12 月）の和白干潟自然観察会は、年間 6 回で、延べ 360 名の参加があった。学校関係からの依頼では、小学校 1 回（和白小学校）109 名、大学 1 回（中村学園大学）20 名、合計 2 回、129 名であった。

年度	団体区分	実施回数	延べ人員
2023	保育園	1	47
	小学校	1	109
	中学校	0	0
	高校	0	0
	大学	1	20
	一般	3	184
	合計	6	360

２．和白干潟の自然観察ガイド講習会

5 月 7 日（日）、第 25 期和白干潟の自然観察会ガイド講習会が実施されたが、降雨のため室内だけで実施し、7 月 30 日（日）にフィールドワークでの講習を行った。今回は、清野講師による「和白干潟の楽しさ再発見の観察会」という題目で行われ、5 月 7 日は 15 名、7 月 30 日は 12 名の参加があった。今回の講義は、市長と環境局長に「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」を求める要望書を提出するきっかけとなった。

ガイドの育成と高齢化の課題に対しては、新規会員の方がガイド見習いとして参加するなど改善の兆しがみえた。ガイド育成研修については、今後も継続して行く。

３．和白干潟のクリーン作戦と自然観察（毎月第 4 土曜日）

毎月第 4 土曜日午後 3 時から 5 時まで（但し、真夏と真冬は時間を短縮した）海の広場から唐原川河口、和白 4 丁目の範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質や砂質調査を実施した。

定例のクリーン作戦は、年間 10 回、2 月と 12 月は悪天候のために中止した。定例のクリーン作戦の他に、自然観察会のチームエナセーブダンロップグループのクリーン作戦では砂に埋もれたタイヤを回収した。今年はアオサが発生したが、11 月に西寄りの強風により沖のアオサが沿岸に吹き寄せられ堆積して、ヘドロになった。定例のクリーン作戦では、参加者は 287 名、その内守る会人数は 137 名だった。その他は 493 名だった。全体では 780 名の参加があった。ゴミの内訳は、可燃ごみ：711 袋、不燃ごみ：24 袋で、合計で 735 袋だった。粗大ゴミでは、今年もタイヤ、浮き、寝具、電化製品、流木など、様々な物があった。定例のクリーン作戦では、企業や九州産業大学生などの参加があった。

年度	活動項目	回数	延べ人数（人）	ゴミの量（袋）
2022	クリーン作戦	12	473	700
	その他	3	264	27
	合計	**15**	**737**	**727**
2023	クリーン作戦	10	287	497
	その他	8	493	238
	合計	**18**	**780**	**735**
増加割合（%）		120.0%	105.8%	101.1%

・4 月 22 日（土）のクリーン作戦は「干潟を守る日」と「春のビーチクリーンアップ」参加

・6 月 24 日（土）のクリーン作戦はラブアースクリーンアップ参加で実施した。
・9 月 23 日（土）のクリーン作戦は「国際ビーチクリーンアップ」に参加し、ゴミデータ調査を実施。ゴミ調査には九州産業大学宗像ゼミの学生や企業からの協力があった。ゴミでは依然プラスチック類のゴミが多かった。

４．第 35 回和白干潟まつり

第 35 回和白干潟まつりを 11 月 26 日に、海の広場にて開催した。新型コロナウイルス感染症も 5 月には 5 類に移行し、8 月の第 1 回実行委員会では、飲食物を含む例年通りのまつりを行うと確認し、準備に入った。今回は生協を通しての新しい出店申し込みもあり、19 店が出店・出展をした。

11 月 26 日、第 35 回和白干潟まつりは前日までの寒さが嘘の様な暖かい日差しに恵まれ、前年を大幅に上回る 570 名もの参加者があった。11 時からの開会式は、35 回を記念してくす玉を割り、みんなで祝った。ラムサール宣言も力強く宣言をしたが、新しい出店者・来場者に対し、ラムサール条約登録の必要性をもっと伝える工夫が必要だった。野鳥観察(65 名)、自然遊び(44 名)、植物観察(19 名)、干潟の生き物観察(40 名)はこのまつりの主要イベント、親子連れの参加が多く賑わった。ステージ企画もコーラス、紙芝居、エプロンシアター、ギター、マジックと時間が足りない熱演だった。

19 店の出店・出展者では、マリンワールドが今年はタッチプールを用意してくださった。ワークショップ、子ども達のパフォーマンス、ハンドメイド雑貨など今までにない新しいバザーとなった。来場者数に対し飲食物が足りず、今後は食べ物を扱う出店者を増やす必要があるが難しい課題となりそうだ。

前日の広場準備から当日の片付けまで、全員で協力して楽しいまつりにする事が出来た。出店者アンケートでも手作りの温かいおまつりで楽しかったと評価していただいた。実行委員会と出店者の連絡に SNS の活用をなどのご意見をいただいたが、やり方を含め今後の課題としたい。

収支は、協賛金、売り上げ、カンパ、事業費を合わせた収入 125,208 円に対し、経費支出 91,558 円、33,650 円の黒字決算となった。

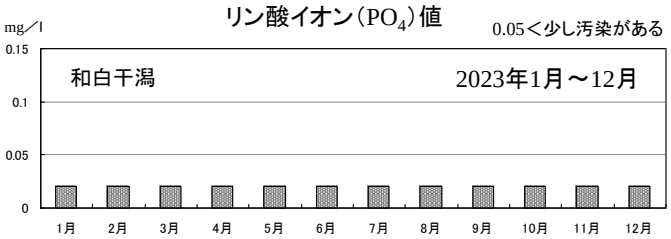
２．和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

５．調査

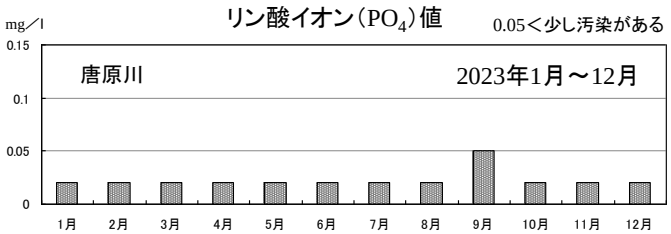
調査項目としては毎月実施する水質調査及び砂質調査、9 月の国際ビーチクリーンアップ参加でのゴミ内容調査のほか、水鳥調査などを実施した。水質に関しては唐原川と和白川を調査地点に加えて観測を行っている。

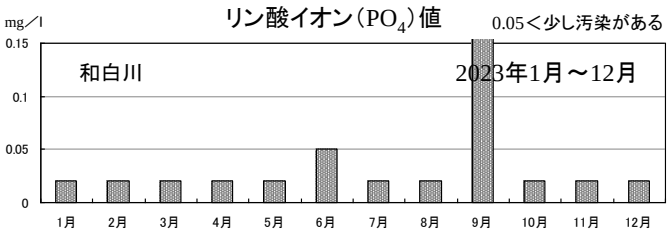
（1）水質調査（毎月 1 回実施）

①リン酸イオン値（PO_4）は海水中のリンの状態を示すもので 0.05 以下は「きれいな水」であること、0.05～0.2 は「少し汚染がある」状態であることを示す。・和白干潟では、年間を通して 0.05 以下であり、「きれいな水」の状態であった。

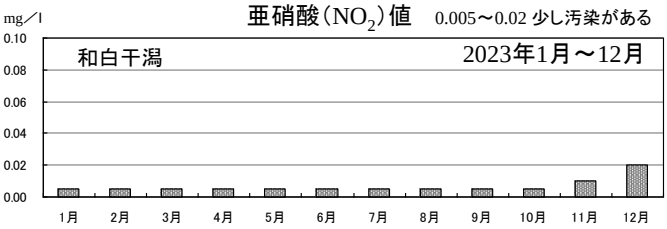


・唐原川は年間を通して 0.05 以下であり「きれいな水」であり、和白川は 9 月が 0.2 で「少し汚染がある」状態で、その他の月は 0.05 以下であり「きれいな水」の状態であった。

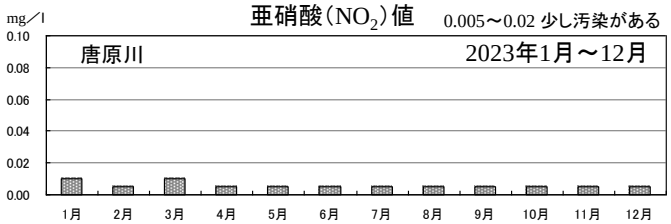


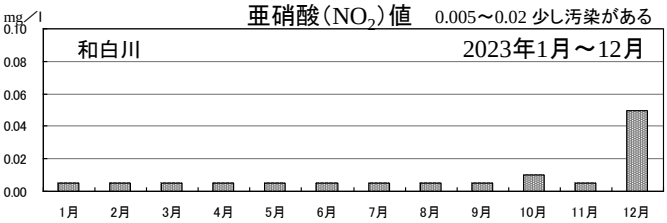


②亜硝酸値（ＮＯ$_2$）は海水の窒素の状態を示すもので、0.005 以下は「きれいな水」、0.005～0.02 は「少し汚染がある」、0.02～0.05 は「汚染がある」状態を示す。

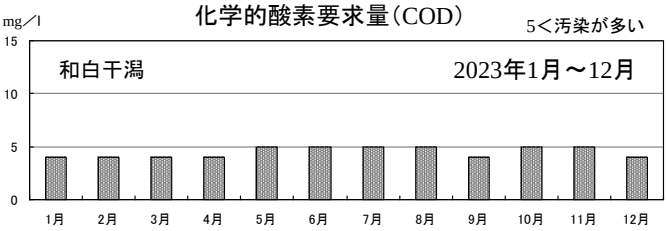


・和白干潟は 12 月が 0.02 で「少し汚染がある」状態のほかは、「きれいな水」の状態であった。
・唐原川は 1､3 月が 0.01 で「少し汚染がある」状態で、その他の月は、「きれいな水」の状態であった。
・和白川は 9 月が 0.01 で「少し汚染がある」状態、12 月が 0.05 で「汚染がある」状態、その他の月は「きれいな水」の状態であった。

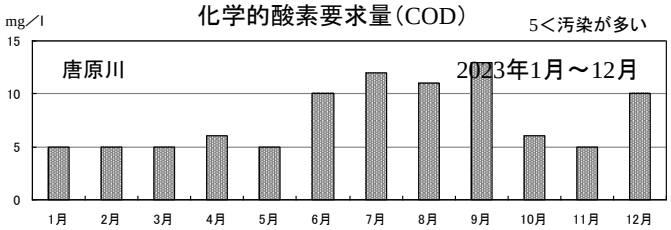


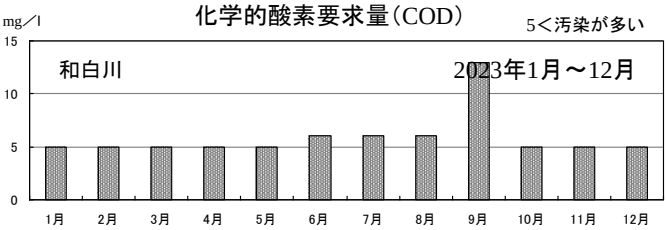


③化学的酸素要求量（ＣＯＤ）は水の汚れ具合を示すもので、2 以下は「きれいな水」、2～5 は「汚染がある」状態、5～10 を「汚染が多い」としている。

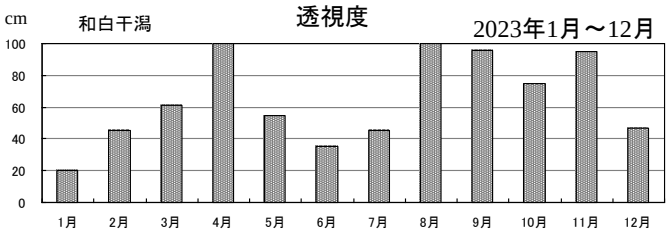


・和白干潟では年間を通して 5 以下であり、5 を下回る月が 6 回あり、「汚染がある」状態であるが、水質は改善傾向にある。
・唐原川や和白川では年に何度か 5 を越えることがあり、和白干潟に比べると汚れが多い。和白川と唐原川を比べると唐原川の方が汚れが多い。





④透視度については、2015 年度からは透視度計の 100ｃｍまで見えることが多く改善傾向にある。しかし、2022 年度は平均で約 40 ㎝と悪化したが 2023 年度は平均 65 ㎝と改善した。

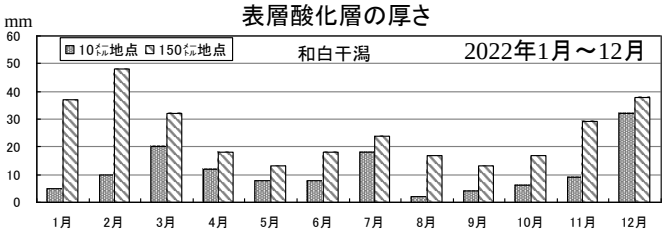


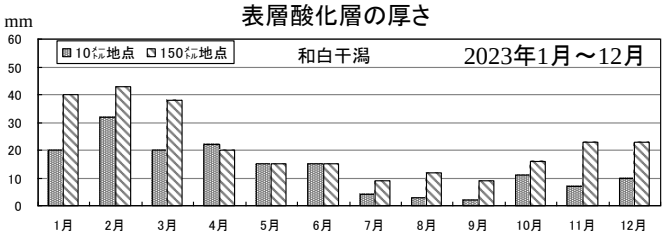
（２）ゴミ内容調査

9 月の国際ビーチクリーンアップにて、干潟に漂着したゴミを回収して内容調査を実施した結果、31 種類のゴミが回収された。収集したゴミの中で、特に多かったのは、今、社会で問題となっているプラスチック類の「ペットボトル」や「食品容器（プラスチック）」で、その次に多かったのは「飲料缶」だった。調査には九産大宗像ゼミの方々の協力があった。調査データは干潟通信やホームページで公表していく。

（3）砂質調査

和白干潟・海の広場前 10㍍地点と 150㍍沖合地点の表層酸化層の厚さと還元層の黒色度を測るものである。表層酸化層が厚いほど干潟が健康な状態にあることを示す。





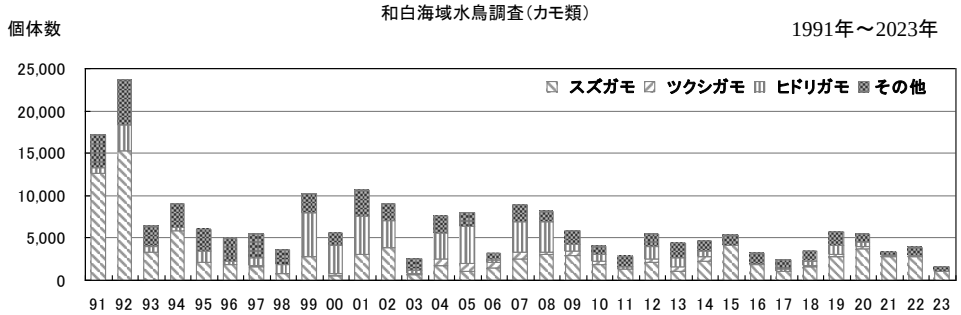
上のグラフは、2022 年度と 2023 年度の表層酸化層測定結果である。沖合いの方が厚い傾向にあるが両年度とも浜辺側の表層酸化層の厚さが薄く、2023 年度は、2022 年度に比べて上旬では改善し、秋以降悪化傾向にある。

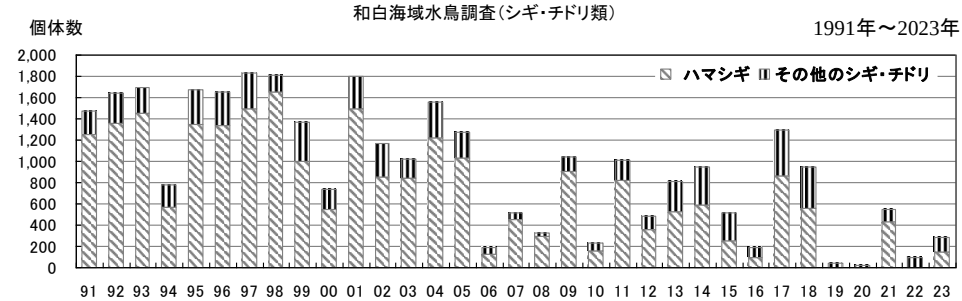
（4）鳥類調査

2023 年度も新型コロナウイルス感染防止のために、調査員は集合せずに各調査ポイントに分かれて調査した。調査記録を写真とともに送ってもらい集計した。
鳥類調査では以下の調査に協力した。

① 1月　和白海域水鳥調査（日本野鳥の会福岡支部）2023 年 1 月 18 日に実施。

和白海域の水鳥の越冬数（和白海域水鳥調査）の内、カモ類は前年の 3,738 羽より減少し 1,619 羽、最多の 1992 年の 23,719 羽と比べて約 15 分の 1 だった。シギ・チドリ類は前年の 100 羽より増加し 288 羽。ハマシギは 145 羽、シロチドリが 93 羽だった。90 年代の約 1,600 羽と比べて約 6 分の 1 に減少した。調査参加者は 6 名だった。

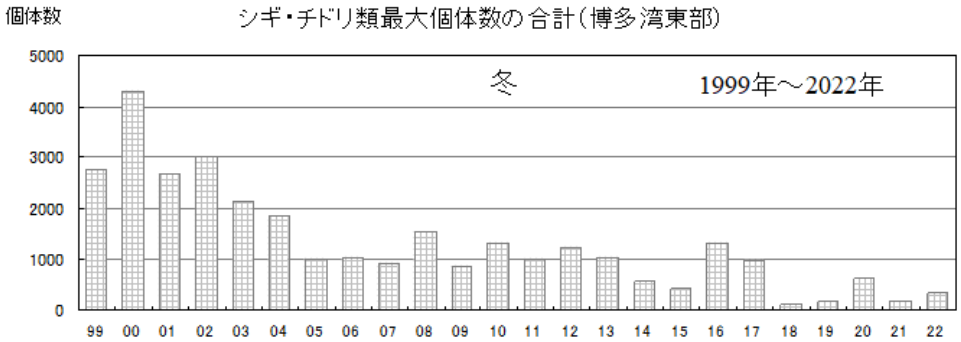


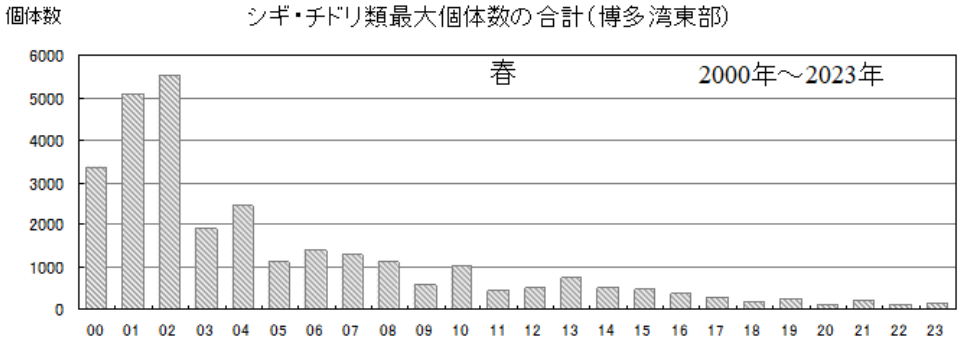


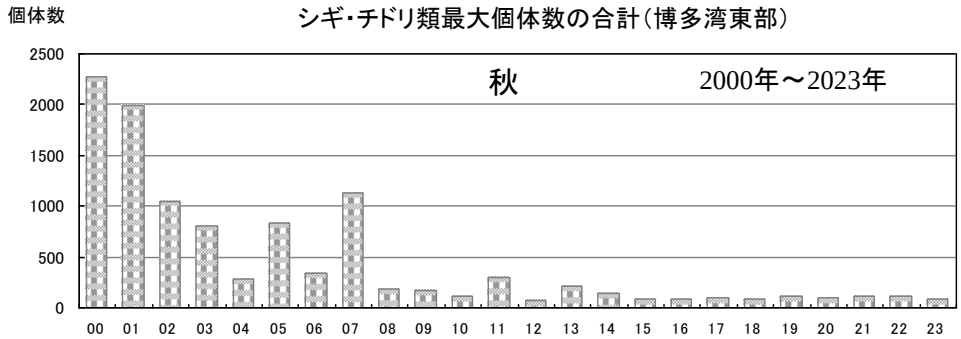
② 環境省モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ調査（環境省・NPO 法人バードリサーチ）

冬期：2022 年 12 月、2023 年 1～2 月　今津と博多湾東部で各 3 回実施
春期：2023 年 4 月～5 月　今津と博多湾東部で各 3 回実施
秋期：2023 年 8 月～9 月　今津と博多湾東部で各 3 回実施

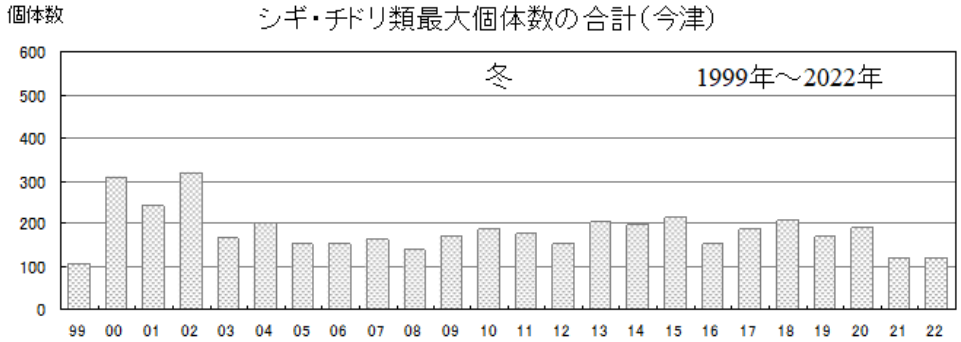
博多湾東部海域のシギ・チドリ類最大数合計は、2022 年度冬期は 2000 年の 4,300 羽から **347 羽**に減少し（昨年 165 羽）、2023 年春期は 2002 年の 5,509 羽から **142 羽**に減少（昨年 120 羽）。2023 年秋期は 2000 年の 2,271 羽から **90 羽**に減少した（昨年 119 羽）。希少種では、冬期と春期にクロツラヘラサギは最大 **14 羽**（昨年 26 羽）、ヘラサギは最大 **4 羽**（昨年 3 羽）、ツクシガモ **118 羽**（昨年 255 羽）、ズグロカモメ 0 羽（昨年 2 羽）を確認した。

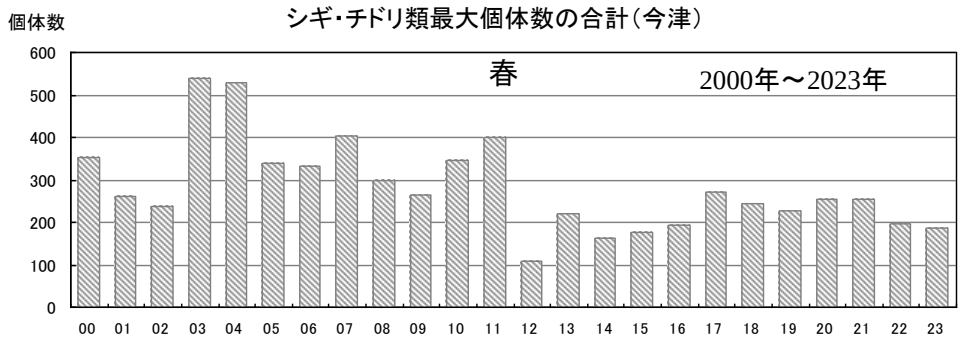


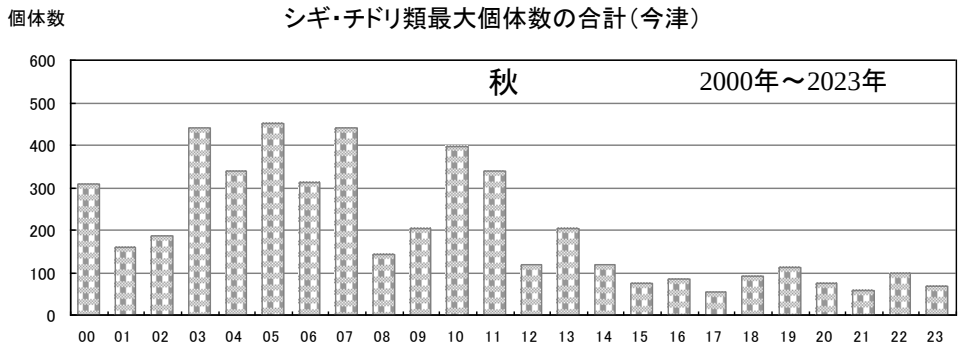




今津のシギ・チドリ類最大数合計は、2022 年度冬期は 2002 年の 319 羽から **118 羽**に減少し（昨年 118 羽）、2023 年春期は 2003 年の 538 羽から **187 羽**に減少（昨年 195 羽）、2023 年秋期は 2005 年の 450 羽から **69 羽**へ減少（昨年 100 羽）。希少種では、冬期と春期にクロツラヘラサギは最大 **12 羽**（昨年 14 羽）、ヘラサギは最大 **8 羽**（昨年 7 羽）、ツクシガモ **148 羽**（昨年 75 羽）、ズグロカモメ **8 羽**（昨年 6 羽）を確認した。







（※博多湾東部と今津のグラフの個体数については単位が違うことに注意！）

この 20 年ほどで博多湾東部の鳥類は大きく減少した。2016 年と 2017 年冬期のシギ・チドリの個体数が少し増加したが 2018 年春期以降はまた減少し 2020 年冬期はまた少し回復したが、少ない状態が続いている。

今津のシギ・チドリは減少状態であるが博多湾東部に比べて減少が少ない。博多湾東部は博多湾の人工島などの開発の影響を大きく受けており、それに比べて今津は開発の影響が少ないと思われる。

2023 年の鳥類調査参加者は、毎回 9 名から 10 名、延べ 84 名が参加。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。鳥類調査担当者が高齢化し、調査員が不足している。車の運転者も不足しており、調査協力者を求めている。

※ミヤコドリは 2023 年 10/1 に 8 羽初認、10/14 に 10 羽、11/3 に 19 羽、11/12 に 21 羽、12/5 に 23 羽、12/16 に 26 羽を観察し、越冬している。（昨年度最大数記録 23 羽）クロツラヘラサギは 2023 年 10/2 に 3 羽初認、10/22 に 22 羽、10/31 に 31 羽を観察（最大数）、11/7 に 25 羽、11/22 に 16 羽観察（昨年度最大数記録 18 羽）その後も越冬している。ツクシガモは 11/20 に 4 羽（初認）、12/5 に 36 羽、12/16 に 67 羽、12/23 に 115 羽。12/26 に 117 羽観察（最大数）、以降も越冬している。（昨年度最大数記録 118 羽）

３．貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。
和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

６．ラムサール条約登録をめざし、行政、議会、市民に向けた活動に取り組む

7 月 18 日に「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」を求める要望書を市長と環境局長へ提出した。しかし、満足いく回答が無かったため、9 月 25 日に再提出をした。ただその回答にも進展した内容は見受けられなかった。今後も粘り強く交渉を続けていく必要がある。

第 35 回和白干潟まつりで、ラムサール宣言を表明する事が出来た。また、福岡市長・福岡県知事・環境大臣・環境省九州地方環境事務所野生生物課・環境省九州地方環境事務所福岡事務所所長宛に「第 35 回和白干潟まつりラムサール宣言」を送付した。

７．福岡県・福岡市等の環境政策、公共事業に対し、情報収集、学習、意見交換、提言に努める

（１）福岡県・福岡市等の政策についての取り組み

①　福岡市市議会議員選挙立候補予定者へ公開アンケートを送付し、結果をホームページに掲載した。

（２）福岡市との連携

①「和白干潟保全のつどい」の定期開催

福岡市港湾空港局環境対策課や自然保護団体などと連携し、「和白干潟保全のつどい」を毎月 1 回定期的に開催している。8 月の定例会議は台風のため中止となった。本年度は、7 月に「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」、9・10 月に「アオサのお掃除大作戦」、12 月に「バードウォッチング in 和白干潟 2023」が予定通り開催された。

②「ラブアースクリーンアップ」

6 月 11 日にラブアースクリーンアップ 2023 が実施され、58 名の参加があった。

８．「山・川・海の流域会議」の他団体との流域連携について

1 月の新春講演会は「立花山の地形・地質」と題して、横山秀司氏に講演していただいた。その後、各グループ・サークル（楽友会・立花山グリーンガイドの会・唐原川を考える会・和白干潟を守る会）の活動報告が行われた。気候の良い 5 月に設定した「唐原川を歩こう」の企画は、雨天のため中止となった。また、7 月の定例会議は大雨注意報が発令された為中止となった。10 月の第 11 回「唐原川お掃除し隊」は令和５年度も予定通り実施する事が出来た。

９．スタッフの確保、活動への参加の強化について

ボランティアの募集に力を入れ、気軽にボランティアに参加できるようにＨＰ、通信、あすみんＨＰなどで情報提供している。クリーン作戦と自然観察会での延べ人数は前年度をやや上回った。新規個人会員は 7 名だったので、会員数は前年度より少し増えた。団体会員数は 1 団体増加した。

１０．広報の強化について

（１）　和白干潟通信・ホームページ・リーフレット類

①　干潟通信

和白干潟通信は 6 名で編集を行っている。1、4、7、10 月にそれぞれ 144、145、146、147 号を作成し、5000 部ずつ発送した。干潟通信は（公財）イオン環境財団の助成金を受けて、ロータリー印刷（株）で作成した。配布先は、会員、マスコミ、行政関係、和白干潟付近の家庭、クリーン作戦や自然観察会参加者、ホテル、郵便局等。

②　　ホームページは、4 名が分担し編集している。

③　「クリーン作戦と自然観察のお知らせポスター」は、公民館、郵便局、周辺大学（福工大、九産大、福岡女子大、令和健康科学大学)、銀行、駅、老人福祉センター（東香園)、スーパーなどにも掲示依頼している。

④　年間スケジュール表 1500 枚を配布した。

（2）その他

①　イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」への参加

イオン香椎浜店で、毎月 11 日にボランティア団体支援のイエローレシート投函を呼びかけるキャンペーンに参加し 16 年目となった。レシートの買い上げ金額の 1%相当額が団体に寄付され、5 月には 1 年間のギフトカードの寄贈があった。新型コロナ感染予防のため、しばらくの間、店頭活動が中止となっていたが、5 類感染症移行に伴い 6 月から店頭活動が再開になった。(但し、6 月は他のイベントと重なっていたため不参加）毎月、2 名がローテーションで参加をしている。

１１．講演活動

山本代表が講演活動を行った。

12 月　九州産業大学特別講義「和白干潟の自然や地球の自然を守る」　総勢 32 名の参加があった。

１２．情報の発信：新聞や雑誌、他団体の会報等に鳥情報、和白干潟の紹介を発信

・くすだひろこきりえ展「和白干潟散歩」レストラン「花もも」にて（5/1～5/31）開催し、和白干潟のパンフレットや通信を配布した。

・日本ユネスコ協会連盟のホームページの点検依頼があり修正を伝えた。

・日本消費者連盟「消費者リポート」編集長の杉浦陽子さんの依頼で和白干潟ときりえの連載 4 回が掲載された。

・福岡市 NPO・ボランティア交流センターあすみんの市民活動フォーラム「グッドアクティビティフェスティバル」で和白干潟を守る会も紹介するため、紹介文などを送った。

・鳥類保護連盟「私たちの自然」誌にガイド講習会案内記事が掲載された。

・クリーン作戦お知らせの掲載願いを新聞 4 社に送付した。

・イオン環境財団 SNS 投稿申請書に「和白干潟まつり参加者募集」「守る会会員募集」「クリーン作戦案内」を書きこみポスターや写真データとともに送付した。

・あすみん開館 20 周年の展示企画先輩 NPO の「あのときとこれから」のコメント依頼があり、和白干潟を守る会のことを紹介した。（館内展示とフェイスブック掲載）

１３．取材協力：新聞社、テレビ局、雑誌などからの取材に協力

・ミヤコドリ、クロツラヘラサギ、ツクシガモの飛来について各新聞社に情報提供した。

11/7　西日本新聞にクロツラヘラサギが掲載された。

11/16 読売新聞にクロツラヘラサギが掲載された。

11/27　西日本新聞に和白干潟まつりが掲載された。

１４．対外団体との交流活動、協力・参加活動

（1）日本野鳥の会福岡支部

毎月 1 回「和白海岸探鳥会」に、お世話係で協力している。

（2）JAWAN、JEAN

①　JAWAN 通信№142 に「和白干潟を守る会 35 年の歩み」、№145 に「和白干潟の自然観察とクリーン作戦」

が掲載された。

② JEAN「国際ビーチクリーンアップ」

4 月 22 日、9 月 23 日に参加。

（3） 日本自然保護協会

日本自然保護協会に和白干潟クリーン作戦の年間スケジュールを送り、情報ナビに掲載された。8 月 18 日「日本のカメ一斉調査」に参加し唐原川から美和台の四十ヶ浦池までのカメを調査した。

（4） グリーンコープ生協ふくおか福岡東支部

第 35 回和白干潟まつりで共催した。

第 1～3 回干潟まつり実行員会にも参加して頂いた。

（5） 福岡市ボランティア交流センター「あすみん」

HP などへの情報提供を継続し、ボランティアに登録した学生などがクリーン作戦に参加している。

（6） 蒲生を守る会とは　機関紙交流を続けている。

（7）「生物多様性のための 30by30 アライアンス」では、定期的に配信されるメールマガジンを共有している。

１５.「和白干潟を守る会」の運営に関して

（1） 定例会議・総会

原則毎月第 4 土曜日に守る会の事務所で「定例会議」を開催。2 月は「総会」を開催し、同日に臨時定例会議を開催した。総会で 1 年間の活動のまとめ、会計等が報告され、質疑は無く全員の拍手で承認された。続いて新年度活動方針、予算、事務局体制について報告されたが、こちらも質疑が無く全員の拍手で承認された。2019 年の総会で定めた内規「会の独立性・中立性について」、「資金の調達について」は特に変更が無かったため、各自で確認することとした。

定例会議では会の活動に関する報告、予定を共有し、重要な事項は全員で意見交換して決定した。

5 月に新型コロナ感染症が 5 類感染症に移行したため、マスクの着用は個人の判断に委ねる事とした。但し、入り口での手指の消毒、間隔を開けて座る、歌は歌わない、窓を開けての換気などは継続している。今年も一度も中止になることなく毎月開催され、出席者は平均で約 12 名だった。

（2） 事務局体制と役割分担

会鳥には「ミヤコドリ」が就き、続いて代表、役員、各イベントのまとめ役等の事務局体制となっている。会の活動にあたって、定例会議に出席している事務局メンバーはできるだけ様々な活動を分担することで、負担が偏らないようにしている。平日の活動が多いため、参加できるメンバーが限られている現状は変わらない。引き続き、新規会員の勧誘に努める必要がある。

（3） 助成

・イオン環境財団から助成を受けた。

（4） 寄付

① 日本ユネスコ連盟協会より応援金をいただいた。

② MS&AD インシュアランスグループホールディングス㈱より寄付金をいただいた。

③ イオン九州㈱より「幸せの黄色いレシートキャンペーン」でイオンギフトカードの寄付をいただいた。

④ 一般財団法人 未来 2016 より寄付金をいただいた。

⑤ 公益財団法人 社会貢献支援団体より寄付金をいただいた。

あいおいニッセイ同和損保より寄付金をいただいた。

（5） 応募と受賞

・「令和 5 年度あしたのまち・くらしづくり活動賞」に応募したが、結果は選外だった。

（６）2023 年度末の新規会員

個人：7 名

（７）2023 年度末会員数（新規会員含む）

個人会員：202 名　　団体会員：１３団体

１６．パンフレット類の在庫　（2024 年 1 月現在）

・和白干潟を守る会リーフレット　3,160

・和白干潟の自然案内（和文）　1,316

・環境教育シリーズⅠ（環境教育プログラム）　5,124

・環境教育シリーズⅡ（水鳥,底生生物、植物図鑑）　116（※今年度印刷予定）

・和白干潟観察マップ・年間スケジュール表　毎年印刷

＊和白干潟を守る会封筒　8,800

・ラムサール条約と和白干潟　300

・未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会 20 年のあゆみ　4

・未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会 30 年の歩み　922

・四季の和白干潟の自然Ⅰ　2,741

・四季の和白干潟の自然Ⅱ　8,900

・和白干潟の自然案内（英文）　496

・環境教育シリーズⅡ（英文）　376

・環境教育シリーズⅡ（韓文）　4

１７．その他

・海ノ中道海浜公園委託の鳥類調査に協力（毎月１回）4 名